

現状

■スポーツ情報発信ウェブサイト「こうちスポーツNAVI」

- 主な機能
 - ①「スポーツイベント・大会・教室」を探す
 - ②「サークル・クラブ・チーム」を探す
 - ③「スポーツ施設」を探す
 - ④「ボランティア情報」を探す
 - ⑤大会・イベント等の申込み機能（R3年度追加予定）
 - ⑥動画掲載機能（ ” ）
 - ⑦アンケートページ作成機能（ ” ）
 - ⑧イベントカレンダー機能（ ” ）
- 利用状況
 - (1)サイトに情報を掲載できる機関・団体(管理団体145団体)
 - 市町村／競技団体／レクリエーション団体／
 - 総合型地域スポーツクラブ／その他スポーツ関係団体
 - (2)サイトを実際に活用している管理団体数
 - R元年度33団体→R2年度13団体→R3年度10団体
 - (3)サイトへのアクセス数（月平均のページビュー数）
 - R元年度4,715→R2年度5,308→R3年度8,732
 - (R3.4月～9月)

■スポーツ課SNSの活用

- スポーツ課SNS
 - ・LINE、インスタグラム、Facebook
 - ・Twitter（高知龍馬マラソン）
- 各SNSによる発信内容
 - (1)LINE
 - 聖火リレーの取組（聖火トーチ展示、聖火リレー日程、公式HP）のお知らせ
 - (2)インスタグラム、Facebook
 - （インスタグラムからFacebookに連動）
 - ※インスタグラムのフォロワー数:864人
 - ・オリンピック関連情報
 - ・スポーツ教室の開催及び参加者募集情報
 - ・県関係選手の活躍記事
 - ・地域におけるスポーツ関連活動の記事
 - ・高知県スポーツ科学センター関連記事
 - (3)高知龍馬マラソンTwitter
 - ※フォロワー数:473人
 - ・高知龍馬マラソンのランナー募集
 - ・関連イベントの情報 など

■スポーツ活動におけるリモートの活用

- 【整備物品】 PC、モニター、カメラ、スピーカー、マイク、モバイルルーター、プロジェクター、会議用ソフト 等
- 【設置施設】 県立スポーツ施設、市町村スポーツ施設等
- <主な取組事例>
 - 1.みる
 - 少年柔道大会のYouTubeライブ配信
 - コロナ禍で大会会場での応援ができない中、県民武道館に配置しているリモート機器を活用し大会をYouTubeでライブ配信
 - 2.する
 - 障がい者支援施設へのリモートで体操教室の配信
 - コロナ禍で実施できる運動が限られている中、土佐市立市民体育館と障害者支援施設をリモートでつなぎ「3B体操」を配信
 - 3.ささえる
 - SSCサポートスタッフ研修のリモート開催
 - コロナ禍で集合研修の実施が難しい中、リモートでSSCサポートスタッフに対する研修を実施

課題

- こうちスポーツNAVI及びスポーツ課SNSの利用がまだ少ない。
- 現在活用しているスポーツ関連のデジタル技術は、NAVIによるイベント等の申込み機能の充実、SSCによるリモートを活用したサポートに限られている。
- よりスポーツに親しみやすくするため、また、効率よくスポーツに取り組めるようにするためには、多様なスポーツ場面において、さらなるデジタル化を検討する必要がある。

アドバイザー！
の主な意見
専門部会員

- 国の次期計画でもデジタル技術の活用は重要項目であり、今後の施策にはデジタル技術の活用は必須。
- デジタル化を進めるにあたっては人材の確保が必要であり、発信する人材がトピックに精通していることが必要。
- 県民が興味を持っているスポーツ情報を的確に捉え、どう発信していくかが重要。
- WEBサイトやSNSについては、運用体制において数年で異動がある行政職員がすべて担っていくことは課題だと思う。
- 広報はブランディングが最も重要だと思うので、デザイン等も含め、ある程度プロの方に任せることはできないか。
- NAVIについては、スポーツ関連団体だけでなく、多分野の団体等のHPにもリンクを張ることも効果があるのではないか。
- SNSの活用について、関係団体などに情報が十分に伝わっていないのではないか。
- コロナ禍においては、リモートの環境整備をさらに整えていく必要があると思う。
- 個人情報の問題などの課題もあるが、リモートでの大会動画配信などは非常に期待している。
- 有望な選手をデータベース化し更新していくことなども人材不足という中では重要ではないか。

強化の方向性

■デジタル技術の効果的な活用 <主な活用例（案）>

スポーツを「みる」

- 既存システムの機能強化及び活用促進
 - ・県立施設予約システム「こうちでスポーツ!!」とスポーツ情報サイト「こうちスポーツNAVI」の統合
- リモートを活用したイベントや大会の配信の拡充
 - ・コロナ禍において無観客で大会等が開催された場合でも、関係者が視聴できるようにYouTubeで配信

スポーツを「する」

- リモートやVR、ARを活用した取組の拡充
 - ・リモートによるスポーツ活動の普及及び効果的な活用の検討・実施

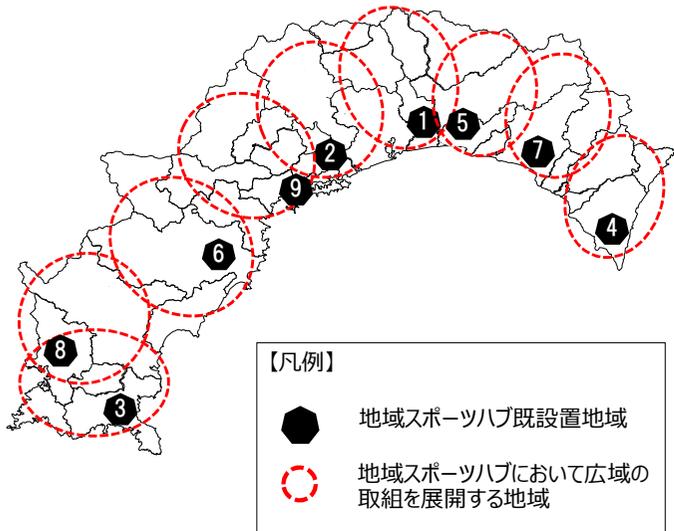
スポーツを「ささえる」

- スポーツ医科学面におけるデジタル化
 - ・競技の特性を踏まえたデータの効果的な活用
 - ・新たな機器の導入（短距離走のタイムをワイヤレスで自動かつ正確に測定できる機器 等）
- 高知龍馬マラソンにおけるデジタル技術の活用
 - ・エントリー機能を簡潔に行うとともに健康チェックシートをオンラインで収集できるアプリの活用
 - ・企業と連携したランニングセミナーにおけるウェアラブル機器の活用
- 自然環境を生かしたスポーツツーリズムの取組における新たな情報発信サイトの構築
 - ・県内のスポーツアクティビティを可視化した新たな情報発信サイトの構築
 - ・新たな情報発信サイト上で事業者情報やガイドができる人材情報、宿泊・飲食・文化・歴史等の周辺情報などが随時更新できる機能を付加

現状

■地域スポーツハブの取組の現状

○地域スポーツハブの設置状況 (R3.9月末現在)



○各地域スポーツハブの取組実績 (R3.9月末現在)

NO.	設置年度	地域スポーツハブ 拠点がある市町 (核となる団体)		これまで取組実績							広域の 取組	自立した 取組
				子どもの 活動	大人の 活動	子どもから 高齢者まで	障害者 スポーツ	部活動 の受け皿	リモート の活動	スポーツ ツーリズム		
1	H30	南国市 (まほろばクラブ南国)	活動数	2	5	12	0	2	0	3	3	1
			参加延べ人数	50	879	1,213	0	30	0	136		
2	H30	土佐市 (総合クラブとさ)	活動数	14	16	6	1	4	1	4	3	1
			参加延べ人数	1617	983	322	14	68	14	142		
3	H30	土佐清水市 (スポーツクラブスクラム)	活動数	8	10	19	0	3	1	1	0	2
			参加延べ人数	478	263	2,031	0	161	5	61		
4	R1	室戸市 (むるとスポーツクラブ)	活動数	3	3	8	0	3	0	1	0	0
			参加延べ人数	187	114	526	0	187	0	24		
5	R1	香南市 (こうなんスポーツクラブ)	活動数	2	14	5	2	0	1	9	1	0
			参加延べ人数	270	2,155	252	56	0	29	1,726		
6	R2	四万十町 (くぼかわスポーツクラブ)	活動数	1	1	3	0	0	2	1	1	0
			参加延べ人数	15	20	116	0	0	0	85		
7	R2	安芸市 (来楽部あつきいな)	活動数	3	2	0	2	2	0	1	0	0
			参加延べ人数	182	60	0	50	207	0	48		
8	R2	宿毛市 (宿毛市体育協会)	活動数	2	1	1	0	0	0	0	0	0
			参加延べ人数	114	31	35	0	0	0	0		
9	R3	須崎市 (すさきスポーツ倶楽部)	活動数	1	0	0	0	0	0	0	1	0
			参加延べ人数	31	0	0	0	0	0	0		

課題

- 各地域スポーツハブにおいて、地域のニーズや課題を捉え、新たなスポーツサービスの提供が一定進んできているが、地域スポーツハブが拠点としている市町を中心とした取組が多く、広域の取組が十分に行われていない。
- 広域の関係者から継続してニーズや課題を捉えることが十分にできていない。
- 障害者スポーツやスポーツツーリズムに関する取組が少ない。
- 新たに立ち上げた取り組みの定着率が低く、継続した取組につなげていく必要がある。

アドバイザー！
主な意見
専門部会員の

- 行政、地域スポーツハブ、スポーツコミッション、中間支援組織のそれぞれの役割を明確にしておく必要がある。
- 地域スポーツをマネジメントできる人材を育成する必要がある。
- 部活動の在り方や地域スポーツクラブの在り方など、課題や対策の方向性をあらゆる関係者が議論することが重要
- 地域スポーツハブは助成終了後の活動の安定化を考える段階にきているが、稼ぐ仕組みが必要だと思う。
- 外部資金で地域スポーツハブを支える仕組みが必要ではないか。
- 子どものころから障害の有無にかかわらずスポーツに親しむことができる環境づくりが必要だと思う。
- 障害者のある子ども達のスポーツ活動については学校との連携強化が必要だと思う。
- スポーツ関連の仕事に興味を持っている学生もいる。人材確保の観点から、就職の機会に大学生に対してNPO法人でも本業にできるといった情報を伝えられることが大切だと感じている。
- 総合型地域スポーツクラブの活動において、市町村も含めて連携エリアをある程度決めることも必要かもしれない。
- 地域スポーツハブの取組は重要であるので、課題や改善点もあると思うが県がしっかりとバックアップしていく必要がある。
- 若者と高齢者が一緒になってスポーツを楽しむ運動会などを通して地域でのコミュニケーションが図れるようにしたい。

強化の方向性

■多様なニーズを捉えた取り組みの拡充

- ニーズや課題に応じた効果的な取組のさらなる充実
- 地域スポーツコーディネーター情報交換会及び研修会の充実

■継続した活動につなげる体制づくり

- 総合型地域スポーツクラブ等への支援
- 市町村行政との連携体制づくり
- 広域で連携したりリモートによる取組の促進

■民間団体や企業等が核となる新たなスポーツ推進体制との連携

- 関係者をつなぎスポーツを通して地域の活性化を目指すスポーツコミッション
(民間団体や企業等で設立：高知県スポーツコミッション)
「指導者の派遣・マッチング」、「スポーツイベントの企画」、「スポーツツーリズム」などスポーツと地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することで、まちづくりや地域活性化につなげる取組を展開。
- 総合型地域スポーツクラブの自立的な運営の促進に向けた支援を行う中間支援組織
(中間支援組織：高知県スポーツ協会)
高知県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を高知県スポーツ協会の組織内組織とし、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度の運用を通じて、総合型地域スポーツクラブの質的充実に向けた取組を展開。

■高知県スポーツ科学センター（SSC）の取組

○運営体制

SSC職員：有資格職員1名、専門職員4名

サポートチーム（外部協力スタッフ）

コンディショニング26名、栄養21名、メンタル1名、

映像分析3名

○利用状況（R1～R3）

項目	利用者数（人） ※R3は9月末時点		
	R1	R2	R3
一般体力測定	138	55	16
専門体力測定	514	466	141
コンディショニングサポート	461	713	335
栄養サポート	168	62	41
メンタルサポート	41	106	4
動作・映像分析サポート	75	169	42
全体	1,397	1,571	579

・スポーツ医科学(測定・サポート)を活用する競技団体(種目)

(R3目標:30団体)

R1:11団体→R2:11団体→R3:6団体

(全高知以外の競技団体(種目)を含む)

○競技団体別利用状況（全高知チームの競技）

競技団体	専門体力測定 利用者数（人）			各種サポート 利用者数（人）		
	R1	R2	R3	R1	R2	R3
ソフトボール	105	42	8	78	40	28
サッカー	89	75	26	65	127	143
柔道	27	20	8	0	0	0
剣道	56	13	2	44	20	7
レスリング	4	0	1	60	30	0
卓球	42	0	0	0	0	0
カヌー	25	42	0	141	105	0
飛込	5	21	19	28	153	146
水球	-	12	0	-	52	29
ラグビー	17	9	0	53	0	0
陸上	9	8	0	103	132	45
バドミントン	16	17	0	70	73	0
ライフル射撃	2	6	0	2	0	4
バスケットボール	-	0	0	-	41	0
ソフトテニス	-	4	0	-	114	0
バレーボール	-	-	0	-	-	0
合計	397	269	64	644	887	402

○研修・支援事業（R2年度実績）

・競技団体の指導者・医科学担当者の研修：2回

・地域の指導者・スポーツ拠点のスタッフの研修：5回

・SSCサポートスタッフ研修：8回

※R3年度は16回の研修を実施予定

○利用競技団体からの主な意見

- ・データの活用をさらに行う必要がある。
- ・映像サポートを有効に活用したい。
- ・メンタルサポート重要性を強く感じる。
- ・測定を定期的に行うことにあまり必要性を感じていない。
- ・トレーニングフォームを教えて欲しい。
- ・栄養サポートは保護者にもお願いしたい。
- ・動作分析はデータの蓄積が必要。
- ・測定を受けた後、各所属チームでのトレーニングが重要。
- ・映像分析については、モデルケースを示してもらいたい。

○SSC推進協議会委員からの主な意見

※SSC推進協議会は有識者や競技団体代表者等で構成し、SSCの事業改善や適切な管理運営のために提案等を行う。

- ・積極的に活用を望む競技団体には、より競技に特化した測定や個別のサポートを行ってみてはどうか。
- ・選手にとってはトレーニングの結果として測定データが向上するとモチベーションに繋がる。
- ・競技団体としてはSSCでの測定データのみのフィードバックではなく、データを基にした活用方法等の助言等が欲しい。
- ・体力測定の人数を絞るか、測定種目を絞り合宿等に組み込む等の工夫が必要ではないか。
- ・指導者の意識が低いことは課題。競技者と指導者が同じものを共有する事が重要。
- ・SSCスタッフの増員や質の向上は急務だと感じる。そのための研修等への参加が必要ではないか。競技団体の指導者育成についてもSSCが中心となって進めていくことが必要ではないか。

○利用者数全体は増加傾向にあるが、スポーツ医科学の活用の定着が一部の競技に限られているとともに、活用している団体においても、頻度や内容が限定的。

・必要性が十分に理解されていない

・競技の特性に応じた具体的な活用方法がわからない

○スポーツ医科学の活用拡大のためには、SSCの体制強化が必要。

○これまでのマンツーマンで指導・サポートする体制から、コンディショニング、栄養、動作、メンタルなどのトータルでサポートする重要性が高まっている。

○選手の若年化が進んでいる中、サポートするスタッフの役割が重要になっている。

○スポーツ医科学の活用は非常に重要。成功事例を作って積極的に紹介してほしい。

○SSCの認知度がまだ低い。競技団体の中でも理解が進んでいないことが見受けられる。

○県全体に周知するのであれば、団体ごとにアプローチする方法を検討するべき。

○どこにどのような人材が必要で、どういふところの人員を増やすべきかということを検討する必要がある。

○スポーツ医科学をより効果的に運用するためにはSSCの施設の拡張や運用時間の見直し（延長）の検討が必要だと思う。

■スポーツ医科学の効果的な活用の促進

○競技団体のスポーツ医科学の計画的な活用に向けたSSCによる支援強化

○競技ごとのスポーツ医科学活用事例の紹介（SSCスタッフ→競技団体へ紹介）

○デジタル機器の活用

■高知県スポーツ科学センター(SSC)による研修内容の充実

○競技団体、学校運動部活動、スポーツ団体と連携したニーズに応じた研修会の実施

○リモートによる研修会の拡充

■高知県スポーツ科学センター(SSC)の体制強化

○サポート体制の充実

○SSCスタッフの資格取得促進

○SSCスタッフの育成プログラムの作成・実施

○日本スポーツ振興センターとの連携強化（連携事業の実施）

■スポーツ合宿等の実績

○カテゴリー別

(KVCA助成金を活用したキャンプ・合宿等)[R3.9月末現在]

カテゴリー	R1	R2	R3
プロ野球	6	4	0
プロサッカー	6	7	0
プロゴルフ	2	0	0
日本代表チーム	1	1	0
トップリーグ	1	1	1
アマチュア	83	39	23

【キャンプ実績のある主なチーム及び県内開催大会】

- <プロ野球>
阪神タイガース、埼玉西武ライオンズ、オリックスバファローズ
- <プロサッカー>
(J1)徳島ヴォルティス
(J2)アルビレックス新潟、ブラウブリッツ秋田
(J3)カマタマーレ讃岐、グルージャ盛岡、カターレ富山
- <プロゴルフ>
・カシオワールドオープンゴルフ
・明治安田生命レディス ヨコハマタイガゴルフトーナメント
- <日本代表チーム>
ソフトボール女子日本代表、カヌー日本代表
- <トップリーグ>
伊予銀行ソフトボール部

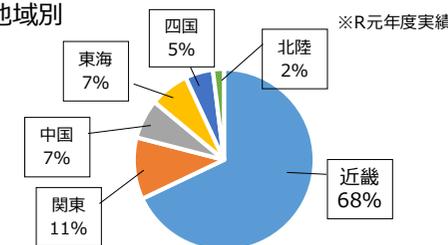
○競技別 [R3.9月末現在]

競技種目	R1				R2				R3			
	一般	大学	小中高	計	一般	大学	小中高	計	一般	大学	小中高	計
サッカー	14	1	6	21	8	2	5	15	5	0	8	13
野球	3	10	1	14	6	3	3	12	1	0	5	6
テニス	0	10	0	10	0	0	0	0	1	0	0	1
陸上	5	5	0	10	4	0	2	6	0	0	0	0
バスケットボール	0	7	2	9	0	0	1	1	0	0	2	2
フットサル	0	4	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0
バドミントン	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
水泳	1	0	2	3	1	0	0	1	0	0	0	0
バレーボール	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
ボート・カヌー	0	2	0	2	2	0	0	2	0	0	0	0
ダンス	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
ウエイトリフティング	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
卓球	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1
ソフトボール	1	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1
柔道	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	26	47	12	85	23	6	12	41	9	0	15	24

○施設別

施設名	所在地	受入団体数		
		R1	R2	R3
春野総合運動公園	高知市	14	9	2
県民体育館	高知市	3	0	0
高知市総合体育館	高知市	3	0	0
高知市東部運動場	高知市	6	2	0
セリーズ	高知市	4	0	0
室戸マリン球場	室戸市	0	1	2
安芸市営球場	安芸市	0	6	1
野市体育館	香南市	5	0	0
県立青少年体育館	いの町	0	2	2
須崎市立スポーツセンター	須崎市	0	2	0
雲の上プール	構原町	3	1	0
土佐西南大規模公園	黒潮町	23	15	12
安並運動公園	四万十市	3	0	0

○地域別



- 新型コロナウイルス感染症の影響により、県内での合宿の減少が懸念される。
- 日本代表チームやトップリーグのチームは少ない。
- アマチュア合宿の実施が多い競技は限られている。
- 合宿を受け入れている県内施設が限定的で、主な県立スポーツ施設や高知市周辺のスポーツ施設だけでは受け入れに限界がある。
- 障害者スポーツの合宿や大会の誘致がない。

アドバイザーの主な意見
アドバイザー：専門部会員

- スポーツツーリズムについては、数値を求める事情もあると思うが、少ない人数でも人的ネットワークが構築されていくことが継続性を生むために必要なことだと思う。そのような評価の仕方はできないか。
- アウトドアスポーツや、アーバンスポーツ、武道ツーリズムなどにも可能性を感じる。他県ができないことを積極的にやるべきだと思う。
- バス利用の助成制度は有効。合宿を行うチームのニーズにあった制度を望む。
- コロナ禍での特徴で、スポーツ合宿に来る団体が自然体験をすることがすごく増えている。チームビルディングやリフレッシュなどができることが有効ではないか。
- 県内でパラスポーツをする機会や見る機会が少ないのが現状。県内の大会を四国大会等に広げたり、中四国大会や全国大会を誘致することを検討してはどうか。

■ターゲットを絞った誘致のさらなる強化

- 日本代表チームやトップチームの誘致強化
- 県内キーパーソンのネットワークによるターゲット競技の誘致
- 自然環境を生かしたスポーツや若者に注目されている競技の誘致
- 関西圏のチームや学校への誘致
- 本県での合宿実績のある団体へのPR活動の実施
- 受入可能施設の掘り起こし及び合宿受入種目の拡大

■市町村や民間団体等と連携したスポーツ合宿の受入れ

- 県内スポーツ施設の有効活用
- 地域スポーツハブによるスポーツツーリズムの拡充
- 民間団体等が行うスポーツツーリズムの取組との連携及び取組への協力・支援

■大会の誘致

- 中四国大会や全国大会の誘致促進
- 障害者スポーツ大会の誘致

現状

■サイクリングツーリズム

- 高知県推奨サイクリングロードの整備
 - ・本県が推奨するサイクリングコースを県内全域に43コース設定(中・上級者向け15コース、観光・ファミリー向け28コース)
 - ・専用ホームページ及びサイクリングマップの作成
 - ・サイクリストの休憩所となるサイクルオアシスの設置(82カ所)
 - ・推奨コースのブルーライン・ピクトグラム設置

- ブルーラインの取組
 - ・推奨コースのブルーライン・ピクトグラム設置(県道896.4km、国道197km、市町村道91.8km)

- 予土県境の取組(予土県境連携実行委員会)
 - ・予土線サイクリトレインの運行
 - ・四万十・南予横断ツーリバービューライドの開催

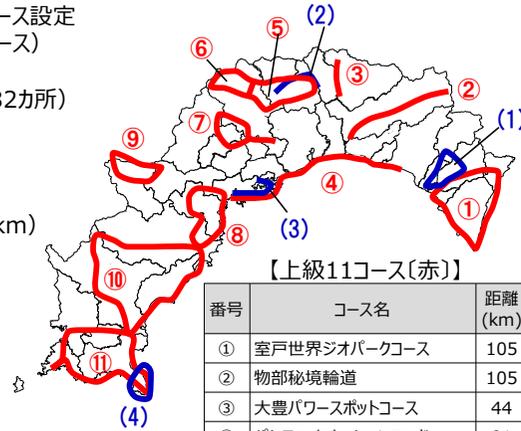
- 四県連携の取組み(サイクリングアイランド四国)
 - ・自主事業及び4県連携推進事業を毎年実施(事業内容は年によって異なる)
 - ・四国一周コースにブルーライン・ピクトグラム設置

- サイクリングイベントの開催(実績)
 - ・四万十・足摺無限大チャレンジライド
 - ・安芸・室戸パシフィックライド
 - ・仁淀ブルーライド
 - ・バイクアインNIYODO など

【中級4コース〔青〕】

番号	コース名	距離(km)
(1)	ゆずの里と慎太郎コース	70
(2)	早明浦ダム湖畔コース	70
(3)	横浪黒潮ラインコース	51
(4)	足摺満喫コース	42

ぐるっと高知サイクリングロード(上級・中級コース)



【上級11コース〔赤〕】

番号	コース名	距離(km)
①	室戸世界ジオパークコース	105
②	物部秘境輪道	105
③	大豊パワースポットコース	44
④	パシフィックオーシャンロード	81
⑤	早明浦ダム固休コース	87
⑥	四国のてっぺんUFOラインコース	68
⑦	奇跡の清流仁淀ブルーコース	106
⑧	目指せ!四万十源流点コース	99
⑨	雲の上の天狗高原横断コース	72
⑩	四万十ヘブンスロード	134
⑪	足摺チャレンジコース	162

■地域の特色を生かしたスポーツツーリズムの拡充

本県の自然環境を生かしたスポーツを県内外に発信し、スポーツを軸とした交流人口の拡大を図るため、新たな情報発信サイトの構築やビジターと県内スポーツをつなぐ仕組みづくりを行う。

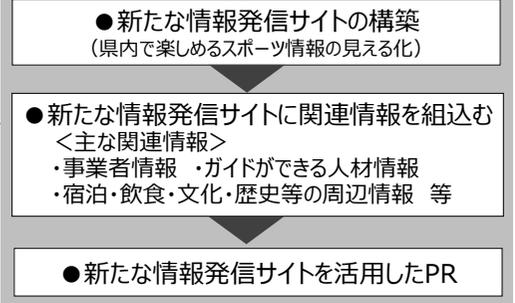
- 意見交換会の実施(第1回:5/27)(第2回:9/15)

■第1回意見交換会の主な意見

- ・紹介する各スポーツの安全面の確保を踏まえて慎重に制度設計する必要がある。
- ・多くの方に協力いただくために、事業スキームを可視化する必要がある。

■第2回意見交換会の主な意見

- ・WEBサイトの運用をプロフェッショナルな業者等に委託してはどうか。
- ・インナーブランディングのPRや事業者紹介、エリア別、季節別で閲覧出来る事は良いこと。



■市町村等が新たに開催する自然環境を生かしたスポーツ大会への開催支援

自然環境を生かしたスポーツ大会開催による地域の活性化を図るため、県外からの誘客が見込める大会を新規に、かつ継続し実施するものに対して開催経費を助成

H28・H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
・安芸・室戸パシフィックライド	・仁淀ブルーライド	・仁淀ブルーライド ・四国西南・無限大ライド	・いの町バイクア ・仁淀ブルーライド(中止) ・ツールド龍馬(中止) ・四国西南・無限大ライド(中止)	・バイクアIN仁淀ブルー(中止) ・ツールド龍馬(中止) ・仁淀ブルーライド(中止) ・四国西南・無限大ライド(3月開催予定)

課題

- 県外や海外のサイクリストを受入れをさらに伸ばすためにはさらなるPRが必要。
- サイクリストを受入れるための案内看板や二次交通・休憩所などの環境整備が不十分。
- 県内で楽しめるスポーツ情報を十分に可視化できておらず、自然環境を生かしたスポーツツーリズムを生かしてビジターと県内のスポーツをつなぐ仕組みづくりが必要。
- 自然環境を生かしたスポーツ大会への開催支援については、種目がサイクリングに限定されている。

アドバイザー・専門部会員の
主な意見

- 新たな情報発信サイトの構築は利用者の利便性が向上し、新しいユーザーの確保に繋がると思う。
- アウトドアスポーツや、アーバンスポーツ、武道ツーリズムなどにも可能性を感じる。他県ができないことを積極的にやるべきだと思う。
- コロナ禍での特徴で、スポーツ合宿に来る団体が自然体験をすることがすごく増えている。チームビルディングやリフレッシュなどができることが有効ではないか。
- 県内でパラスポーツをする機会や見る機会が少ないのが現状。

強化の方向性

■ぐるっと高知サイクリングロードの充実

- ナショナルサイクルルートの認定に向けた取組への支援
- 安全にサイクリングが楽しめる環境整備
- 関係機関・団体等と連携した受入れ環境整備の検討

■ぐるっと高知サイクリングロードを生かしたプロモーションの強化

- 四国4県が連携した四国一周サイクリングルートのPR強化
- 新たな情報発信サイトを活用したプロモーションの展開
- 関西圏における新たな出展機会を捉えたPR

■地域の特色ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進

- 新たな情報発信サイトを活用したスポーツツーリズムのプロモーションの展開
- 新たな情報発信サイトの拡充に向けた地域の資源の掘り起こし・磨き上げ

■自然環境を生かしたスポーツ大会への効果的な支援の実施

- 補助制度の見直し等による新たな大会開催の促進

■オリンピック事前合宿（大会直前合宿）

○チェコ共和国
7月11日～30日 / 4競技45名 / 陸上14名(春野陸上競技場等)、水泳14名(くろしおアリーナ)
カヌー13名(須崎市カヌー場)、ボート4名(須崎市カヌー場)

○シンガポール共和国
7月11日～20日 / 1競技13名 / バドミントン13名(南国市立スポーツセンター)

■国別の交流実績

○チェコ共和国

Table with 5 columns: 交流の主体, 時期, 場所, 主な内容, 主な成果. Rows include exchanges with Czech Republic, South Korea, and Singapore.

○シンガポール共和国

Table with 5 columns: 交流の主体, 時期, 場所, 主な内容, 主な成果. Rows include exchanges with Singapore and other international partners.

■本県出身選手の出場・成績

- オリンピック
・宮本葉月：飛び込み女子シンクロナ板飛込（第5位）
○パラリンピック
・池 透暢：車いすラグビー（銅メダル）
・小松沙季：パラカヌー女子ヴァーシングル（準決勝進出）
・藤原大輔：パラバドミントン混合ダブルス（銅メダル）

○オランダ

Table with 5 columns: 交流の主体, 時期, 場所, 主な内容, 主な成果. Rows include exchanges with the Netherlands and Australia.

○オーストラリア

Table with 5 columns: 交流の主体, 時期, 場所, 主な内容, 主な成果. Row includes exchange with Australia.

○トンガ

Table with 5 columns: 交流の主体, 時期, 場所, 主な内容, 主な成果. Row includes exchange with Tonga.

○ハンガリー

Table with 5 columns: 交流の主体, 時期, 場所, 主な内容, 主な成果. Row includes exchange with Hungary.

■オリンピック・パラリンピック競技

Table with 2 columns: オリンピック競技, パラリンピック競技. Lists various sports and medal counts.

(※)は新種目がある競技
※1:3×3
※2:BMXフリースタイル
※3:自転車タイムトライアル

- 事前合宿やホストタウン事業において実施した交流などの取組、また、東京オリンピック・パラリンピックの成果を今後のスポーツ振興につなげることが必要。
○各交流を継続・発展させるためには、財源の確保やサポートする人材の確保など、各交流の主体を中心とした関係機関・団体の連携が必要。

アドバイザーの主な意見
専門部会員

- 「レガシー」は、様々な視点がある。事前合宿を受け入れたから見た、培われたものがあり、コロナ対応も含めた経験値のようなものもレガシーだと思う。
○オリンピック・パラリンピックに出場した本県出身選手に、大会後、様々な本県のスポーツ振興の場面に協力してもらえるよう積極的に協力を求めていく必要がある。
○オリンピックを通じて様々なスポーツに対する賛否が社会に広まったように、今一度社会に向けてのスポーツの意義を考え伝えることが必要であり、改めて、スポーツの枠内だけで物事が完結しないようにすることが重要だと思う。
○オリンピックなどを招聘する際に当該種目の体験教室のみにとどめるのではなく、講演会やイベントも含めて立案することが、最終的には県民に対する一番の周知につながるのではないかと。
○本県出身のオリンピック・パラリンピアンや優秀な指導者がうまく高知に帰ってこられるような体制を検討できないか。
○継続した交流を行ううえで、競技団体や個人の負担だけでは難しい部分もあるので、支援や強化費の活用などの検討が必要ではないかと。

■スポーツを通じた交流の推進

- スポーツ合宿の受け入れや相互交流
○海外コーチによる指導者講習会
○スポーツ医科学面の連携・協力
○地域スポーツクラブとの交流
○スポーツ大会・イベント等の連携
○スポーツ以外の分野における交流
○大規模イベント等を捉えた本県のPR

■障害者スポーツ（パラスポーツ）の推進

- 障害者スポーツの大会・合宿の誘致
○スポーツ機会の充実
・スポーツに出会う機会の提供
○競技スポーツ選手の育成・支援の強化
・パラアスリートの発掘を見据えた体験会の開催
・指導者の育成や医科学的支援
○障害者スポーツの理解啓発の充実

■オリンピック・パラリンピアンによる体験や学びの機会の提供

- スポーツの魅力や価値を伝える機会の拡充
・オリンピックやパラリンピアンによるスポーツ教室や体験会の実施
・パラリンピアンによる学校や施設における障害者スポーツ（パラスポーツ）体験やスポーツに関する学びの機会の提供

■新たなスポーツへの対応

- 東京オリンピックから加わり、注目された新競技やパラリンピック競技について、県内の競技人口等を把握したうえで今後の対応を検討